

東村山ものしりシート

9

令和6年6月発行

しもやけ べいせき

下宅部遺跡-4 うるし(漆)



げんだい エスティーゼーズ
うるし(漆)は現代のSDGs!?
しぜん しげんをムダにせず、ときながも
自然の資源をムダにせず、土器も長持ち!

じゅえき と 樹液を採る

うるし林の樹の間を広く保つために切り倒した、若い木を再利用して杭を作っていました。川から見つかった杭には樹液を採った傷が残っていて、鋭い石器で傷をつけて、木を切り倒す前に幹と枝の全てから樹液を採りつくしています。

※杭：地面に打ち込んで目印や支える柱にする棒



ちようせい かこう 調整・加工

採った樹液からゴミを取り除いて、熱を加えてよくかき混ぜて、水分を飛ばすと黒の色がはっきりします。これが黒色うるし(漆)で、さらに赤色の水銀朱やベンガラなどを混ぜると赤色うるし(漆)になります。

じょうもんじだい 縄文時代の漆工技術

ほしゅう 補修

壊れた土器を植物の繊維を混ぜたうるし(漆)で接着したり、ヒビにしっかき塗りして補修をしています。



とふ 塗布

土器や木製品には、筆やハケのようなものを使ってうるし(漆)を塗っていました。



せいひん 製品

黒色と赤色うるし(漆)を上手に使って作っています。土器には主に黒色うるし(漆)が使われていて、赤色うるし(漆)塗り土器の場合でも黒色うるし(漆)の上に赤色うるし(漆)を重ねて塗っています。



【赤色漆塗り注口土器】

おおむかし
大昔なのに
すごいね!!



さんこうにしたもの

- 東村山市ホームページ
 - 下宅部遺跡
 - 縄文の漆リーフレット ほか
- 【東村山ふるさと歴史館 監修】